

Tokyo 2020 Vision

スポーツには、世界と未来を変える力がある。

1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は

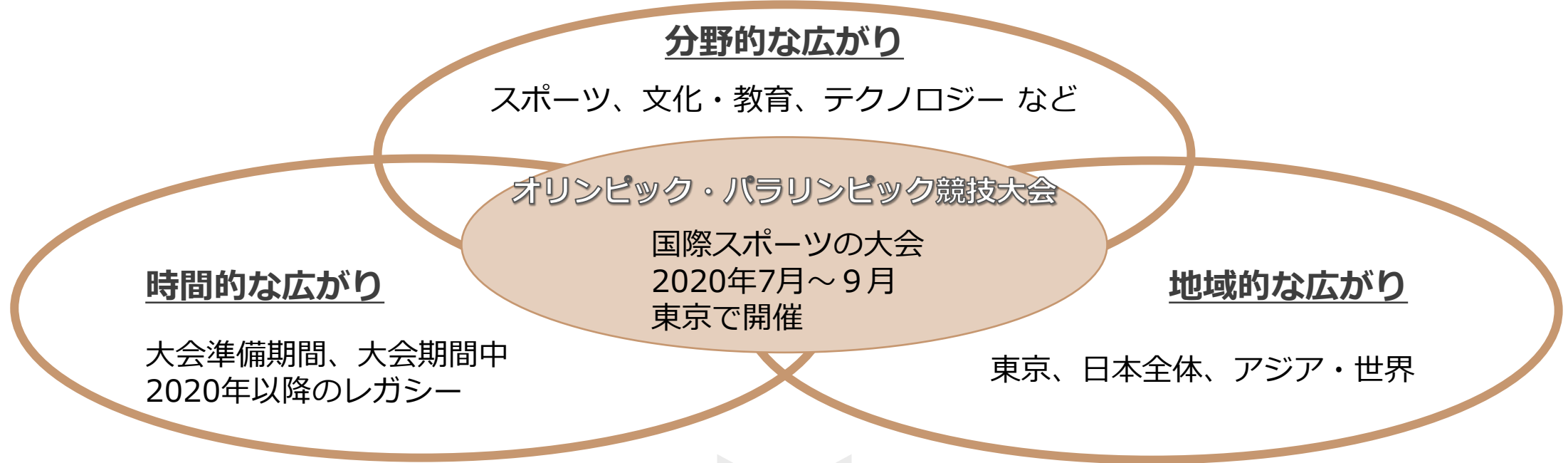
「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」

「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」

「そして、未来につなげよう（未来への継承）」を

3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで
世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

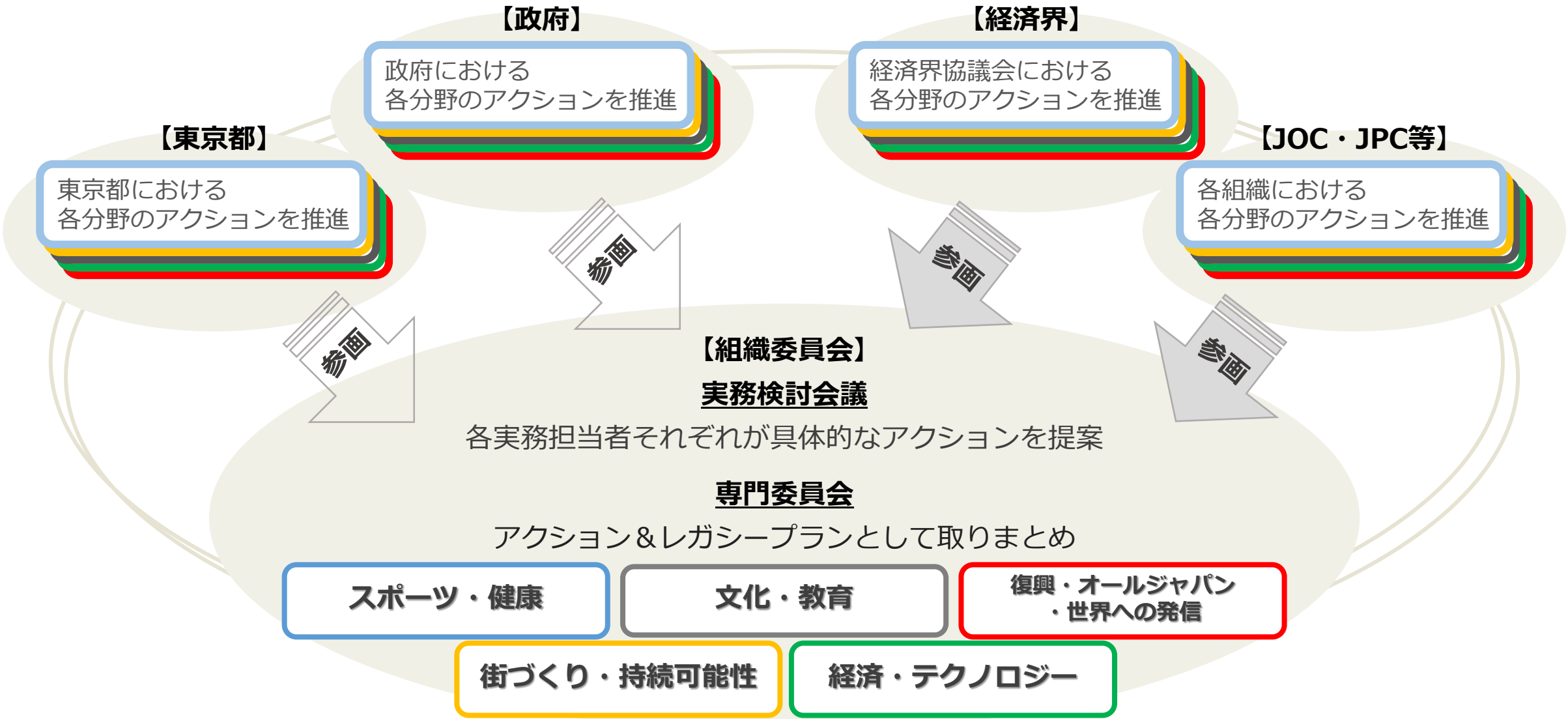
1. 広がりのある取組を進めるための5本の柱



それぞれの分野で「ベスト」を目指し、多様な分野を「調和」させ、次世代に「継承」する

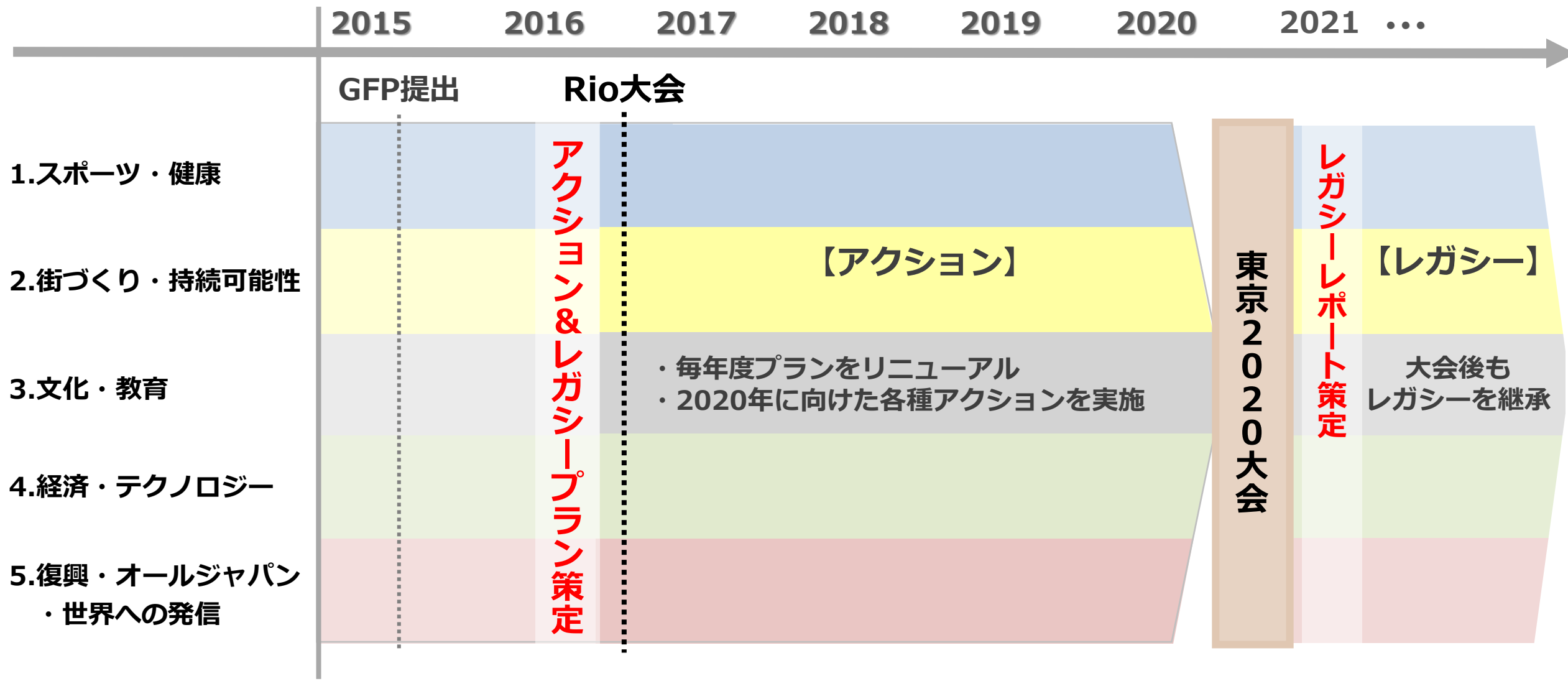


2. アクション&レガシーのための連携



計画当初の段階から包括的なプランを策定、組織横断的な体制を構築

3. アクション&レガシープラン スケジュール



4. アクション&レガシーの例（1）

スポーツ・健康

- 観客と選手が一体化した大会の実現や、政府によるスポーツ・フォー・トゥモローなどを通じた国内外へのオリンピック・パラリンピックの精神の浸透
- 大会に関連したスポーツイベントや高齢者や障がい者を含む草の根スポーツの振興を通じた健康志向の高まりや地域スポーツの活性化
- アスリートの発掘・育成・強化の更なる推進やNTC・JISS等の機能の充実によるトップアスリートの国際競技力の向上
- パラリンピック競技の体験やパラリンピアンとの交流を通じた人々の意識改革・共生社会の実現

街づくり・持続可能性

- 周辺地域の街づくりとの連携や大会後の有効な活用を想定した大会関連施設の整備
- バリアフリー化の推進や交通インフラ等の整備・充実による誰もが安全で快適に生活できる街づくりの推進
- 大会における燃料電池車の採用や再生可能エネルギーの活用、暑さ対策を通じた持続可能性の重要性の発信
- 水素などスマートエネルギーの導入に係る取組の推進

4. アクション&レガシーの例（2）

文化・教育

- 文化プログラムや開閉会式、聖火リレー等を活用した多様な日本文化の発信と継承
- 教育プログラム等を通じたオリンピック・パラリンピックの精神の浸透
- 大会観戦やボランティアへの参加、アスリートとの交流等を通じた国際社会や地域の活動に積極的に参加する人材の育成
- 人種、宗教、政治、性別、障がいの有無など多様性を尊重する心の醸成

経済・テクノロジー

- 大会開催を通じた日本経済の再生と本格的成長軌道への回復への寄与
- 大会を、ロボット、燃料電池車、自動翻訳技術などの最高水準のテクノロジーのショーケースとし、日本発の科学技術イノベーションを発信
- 東京国際金融センターの実現

復興・オールジャパン・世界への発信

- 聖火リレーや文化・教育プログラムの実施を通じた東日本大震災の復興状況の世界への発信・防災意識の向上
- イベントやアイデアの提案、ボランティア、寄付など、個人や企業等による大会サポートのメニューの提示
- ボランティアの採用、各種イベントや開閉会式等による全国的な盛り上げを通じた「オールジャパン」体制によるオリンピック・パラリンピックムーブメントの推進
- 大会を契機とする日本各地の地域活性化や外国人観光客等の誘致
- 各種イベントや大会を通じたオリンピック・パラリンピックの価値や日本的価値観の発信

「6章 アクション&レガシー」の中のテクノロジーに関する記載（抜粋）

6章 アクション&レガシー

6.1 アクション&レガシープラン

6.2 プランに盛り込まれるレガシーとアクション

6.2.1 スポーツ・健康

(1) 国内外へのオリンピック・パラリンピックの精神の浸透／(2) 健康志向の高まりや地域スポーツの活性化が及ぼす好影響／(3) トップアスリートの国際競争力の向上／(4) アスリートの社会的・国際的地位やスポーツ界全体の透明性・公平性の向上／(5) パラリンピックを契機とする人々の意識改革・共生社会の実現

6.2.2 街づくり・持続可能性

(1) 大会関連施設の有効活用／(2) 誰もが安全で快適に生活できる街づくりの推進／(3) 大会を契機とした取組を通じた持続可能性の重要性の発信

6.2.3 文化・教育

(1) 文化プログラム等を通じた日本や世界の文化の発信と継承／(2) 教育プログラム等を通じたオリンピック・パラリンピックの精神の普及と継承／(3) 国際社会や地域の活動に積極的に参加する人材の育成／(4) 多様性を尊重する心の醸成

6.2.4 経済・テクノロジー

(1) 大会開催を通じた日本経済の再生と本格的成長軌道への回復への寄与

(アクションの例)

- ① 日本の技術力や市場の魅力のPRによる、海外からの投資の積極的な誘致
- ② 東京国際金融センターの実現
- ③ 経済・テクノロジー関連イベントの開催

(2) 大会をショーケースとすることによる日本発の科学技術イノベーションの発信

(アクションの例)

- ① ロボット、燃料電池車、自動翻訳技術、超高精細映像技術(4K／8K)など、世界最高水準のテクノロジーの研究開発の推進と大会への活用
- ② 障がいのある観客や視聴者も大会を楽しめる技術の導入
- ③ 無料公衆無線LAN環境やデジタル・サイネージ(電子機器による情報表示)など、官民一体となったICTインフラ・環境の整備
- ④ 外国人旅行者の増加を見据えた海外発行クレジットカードや電子決済の利用拡大などキャッシュレス決済の普及促進

6.2.5 復興・オールジャパン・世界への発信

(1) 東日本大震災の被災地への支援や復興状況の世界への発信／(2) 「オールジャパン」体制によるオリンピック・パラリンピックムーブメントの推進／(3) 大会を契機とする日本各地の地域活性化や観光振興／(4) オリンピック・パラリンピックの価値や日本的価値観の発信